令和４年度　江戸川区立二之江小学校　学校関係者評価　最終評価用報告書

学校教育目標	人権尊重の精神をもとに、心身ともに健康で豊かな心をもち、自ら学び、考え、行動し、主体的に自己実現を図ることができる児童の育成を目指し、次の目標を設定する。「考える子」「助け合う子」「元気な子」	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・「わくわくどきどきする教育活動」として、子供たち一人一人が「できた」「分かった」の喜びを十分実感し、自分のよさを認め、他人を思いやる心をもった「あなたもわたしも大切な一人」を目指した学校 ・基礎基本を身に付け、自ら考え判断力表現力に富んだ子供・進んで挨拶ができ、自らを律し他人と強調し合う心豊かな子供　・基本的な生活習慣を身に付け、心身ともに健康で活力に満ちた子供
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞・校内研究では、平成31年度より「社会科」の教科を研究している。昨年度は個別最適な学びの実践を主題とし、計画的に研究をすすめることができた。今年度は、区の研究課題実践校として、2月に研究発表を予定している。 ・休み時間に校庭だけではなく、体育館も使用し、計画的に運動遊びを実施することにより外遊びをする児童が増えた。 ＜課題＞・学力調査や東京ベーシックの結果より、学力の2極化が課題である。東京ベーシックドリルの活用の継続による学習内容の定着、教員の学習指導力向上の推進、若手教員研修の充実とともに校内OJT体制の確立をさせていく。また、計画的な補習を行っていく。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価 取組	自己評価 成果	自己評価 成果と課題	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 コメント	来年度に向けた改善策
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・7つの主な事業（取組）に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・SUT（学力向上のための時間）に行う東京ベーシックドリルの計画的な実施 ・校内研究の充実、教育課題実践校として、指導と評価の一体化の研究 ・外部講師と連携をし、放課後補習教室を実施。学期に1度、担当と面談し、補習教室の充実に努める。 ・学期に一度、江戸川っ子Study week!を実施し、eライブラリアドバンスを中心に家庭学習、補習等での活用 ・2学期より、教科担任制の実施	・週1回以上SUTを実施し東京ベーシックドリルで学力向上を図る。 ・3回目の診断テストで正答率80%以上を8割の児童が到達できるようにする。 ・年間5本の研究授業を実施する。2月には、区の教育実践校として、社会科の研究発表を行う。 ・学期ごとのeライブラリアドバンスの目標数値を立て、活用を促す。1学期の使用率より150%以上の実施数を目指す。 ・2～6年生の横出児童による、週に1度の放課後補習教室の実施。2学期後半より、1年生も補習教室に参加予定。	B	A	○校内研究を計画的に行い、2月には区の教育課題実践校として、指導と評価の一体化について提案することができた。 ○eライブラリの積極的な活用を促し、目標数値を達成することができた。 ○今年度より始まった放課後補習教室の体制を確立することができた。	B	○児童一人ひとりの学びを大切に、丁寧に学習を進めてほしい。	・東京ベーシックドリルやドリルパークを計画的・効果的に活用し、基礎基本の定着を図る。 ・放課後補習教室を十分に活用して、算数科における学力を向上させる。 ・SUT（スキルアップタイム）の時間を効果的に使えるよう組織で活用方法を検討、計画し、着実に実行する。
	体力の向上	・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	・全校で「縄跳び（短縄、長縄）」「持久走」「全校運動遊び」に取り組む。 ・週に一度、パワーアップタイム（全校外遊び）の時間を設定する。学年ごとに「鬼あそび」「固定遊具」「体つくり」に取り組み、児童の体力向上、運動遊びの定着を図る。	・実施前3週間をそれぞれ縄跳び月間、持久走月間として、めあてをもたせて運動に取り組ませる。 ・週に一度、全校外遊びの時間を設定する。	B	B	○縄跳び月間、持久走月間にて、めあてをもたせ、自分の目標に向かって取り組むことができた。 ●縄跳び月間、持久走月間の期間、それぞれの取組を行う際に、校庭の遊びを限定することがあり、外遊びの機会が減る結果になってしまった。	B	○コロナ禍においても、計画していた持久走や縄跳びが継続してできた。新校舎移動後、校庭での体育の授業を工夫して児童の体力向上をお願いしたい。	・次年度は2学期より新校舎に移転し、十分に校庭が使用できないが、なわとびやマラソンの取組を体育部を中心に計画し、児童の体力を向上させる。 ・教室や体育館等、狭いスペースでも可能な遊びの提案をし、児童が体を動かす時間を多く確保する。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・図書資料の計画的な購入、廃棄 ・読んだ本の記録 ・図書室の本の分類・整理 ・探究的な学習における図書室の利用 ・教員による読み聞かせ、朗読会の実施。	・各学年の読書ノートを活用し、学期に一回程度、資料の探し方や活用の仕方を学ぶ機会を設ける。 ・2学期読書冊数20冊以上（上学年）、30冊以上（下学年）の到達率75%以上。 ・月に1度、朗読会を実施する。また、教員による読み聞かせは、学期に1度実施する。	B	B	○教員による読み聞かせ、朗読会の実施をし、児童にとって読書が魅力的なことを発信することにより、読書に親しむ児童が増えた。 ○学校引っ越しに向けて、計画的に本の購入、廃棄をすすめることができた。 ●調べ学習において、図書を利用するよりもタブレット端末を使用する児童が増え、探究的な学習における図書室の利用が減った。	B	○図書室の図書の充実を図ってほしい。	・教員による読み聞かせ、朗読会は継続して実施し、全校児童がいつでも読書に親しむように読書環境を整える。 ・調べ学習では、タブレット端末だけではなく、学校図書館を利用するよう呼び掛けたり、図書の整理をしたりする。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・オリパラコーナーを通して、国際教育の充実を図り豊かな心の育成を図る。 ・心理士や巡回指導教員との連携 ・個別指導の継続	・オリパラコーナーの掲示を月に1回程度更新させることで、参加する国々の文化や歴史について児童が分かるようにする。 ・個別指導や支援を要する児童の8割以上が明るく元気に学校生活を送ることができる。	B	B	○本校の卒業生のパラリンピアンとの交流したり、道徳地区公開講座でスペシャルオリンピックスの講手を講演会を実施したりして、障害者スポーツへの理解を深めることができた。 ○心理士巡回の日を周知したり、巡回指導の記録を教員と共有したりすることで連携を密にすることができた。 ●オリパラコーナーの更新機会を月1回程度にすることはできなかった。	B	○卒業生であるパラリンピアンとの交流は、有意義なものである。継続を望む。 ○特別支援教育について、児童は様々な立場の人の指導を得ながら安心して学校で過ごしている。	・今年度と同様、障害をもつ方たちとの交流を図ることのできる場面を設定する。 ・特別支援研修会を実施したり、校内委員会等で児童の情報を共有し、スクールカウンセラー、巡回心理士、巡回指導教員と連携したりしながら、特別な支援を要する児童への理解を深める。
	子供たちの健全育成	・子供たちの健全育成に向けた取組	・生活指導連絡会の効果的な活用。 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用 ・hyper-Quを活用、分析し、児童への適切な対応を図る。	・毎週1回金曜日の放課後、生活指導連絡会を開き、問題・課題のある児童について情報交換を行う。 ・学期に1度の連絡会で地域の情報交換を行い、校内でも周知を図る。 ・hyper-QUの結果より、「学級生活満足群」の数値を前回比較より向上させる。	B	B	○年度はじめに、全学級の問題・課題のある児童についての情報交換を行った。 ○週1回の生活指導連絡会で、生活指導にまつわる情報を共有できた。	B	○課題のある児童の情報を教職員間で共有し、指導に生かしている。 ○挨拶を保護者、地域を巻き込んだものにしていくと、さらに効果が上がるのではないか。	・今年度と同様、生活指導連絡会等で児童の様子を報告し、複数の目で児童対応できるようにする。 ・学期に1度「挨拶デー」を設定し、教員が自ら手本を示して挨拶あふれる学校にする。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・学校関係者、地域の方に教育活動を理解していただけるように、定期的に学校公開の機会を設ける。 ・関係者より評価をいただく機会を計画的に設け、いただいた評価を基に学校運営、教育内容の改善を図る。	・学校公開等の機会を利用し学期に1回は、地域に学校の様子を見ていただいたり、学校の情報を積極的に発信したりしていく。	B	B	○新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より、学校公開のため地域の方々に教育活動を公開することはできなかった。一方で、学校ホームページの積極的な更新により、学校の情報を伝えることができた。	B	○学校公開では参観人数を制限して実施するなど、コロナ禍でもできることを工夫して行っていた。 ○学校ホームページはこまめに更新され、学校の様子がよく分かった。	・学校関係者に学校の様子を伝える機会や評価をいただく場面を計画的に設定する。 ・学校ホームページに関しては、今年度同様積極的な情報発信に努める。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・プレミアムデー（定時退庁日）を設定する。 ・C4thの連絡掲示板を使用し、連絡会の短縮化を図る。 ・SSS（スクールサポートスタッフ）の効果的な活用をし、業務軽減を図る。	・月に1度、プレミアムデーを設定し、定時退庁を促す。 ・連絡掲示板を活用することによって、連絡会の時間を15分以内に収める。 ・SSSの計画的・効果的な活用により、業務の軽減を図る。	B	B	○連絡掲示版の活用により、連絡会の時間はほぼ15分以内に収めることができた。 ○SSSの効果的な活用により、教員の業務を軽減することができた。 ●プレミアムデーを設定したが、定時退庁の推進には至らなかった。	B	○子供たちが元気に学んだり、遊んだりできるよう教職員も働き方に気を付けて、健康を維持してほしい。	・連絡掲示板の効果的な活用は次年度も継続して実施していく。 ・プレミアムデーでは、定時退庁ができるよう促していく。 ・学校行事の内容の精選、校務分掌の仕事の内容の見直しを通して、業務の軽減を図っていく。